

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	21229013	研究期間	平成21年度～平成25年度
研究課題名	間葉系細胞由来ホルモンの生理作用とその破綻	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	中尾 一和（京都大学・大学院医学研究科・教授）

【平成24年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A- 当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)	
<p>本研究では、間葉系細胞由来ホルモンのシグナル制御とその破綻について系統的研究を実施し、新規の動物モデル作成を通じて分子メカニズムの解明を中心に据え、トランスレーショナルリサーチ (TR) も推進している。幾つかの重要な進展があり研究は概ね順調である。</p> <p>例えば、CNP/GC-B, ANP・BNP/GC-A 並びにレプチンに関する生理的意義・病的意義の理解は本研究によって確実に進展すると考えられる。また、臨床研究として CNP を用いた軟骨無形成症に対する TR についても期待が持てる。</p> <p>一方、余りに広い研究範囲と高度な目標設定であるため、研究の進行が遅れている印象もある。各研究目的のロードマップを十分に検討し、マンパワー及び研究費の効率的な再配置が望まれる。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	<p>本研究の成果のうち、ナトリウム利尿ペプチドに関する全身及び組織特異的欠損マウスの作成や解析は概ね順調である。またレプチンのトランスレーショナルリサーチ (TR) では、脂肪萎縮症に対するレプチン補充療法の薬事承認を経て、世界で初めての臨床応用を日本で実現したことは極めて高く評価できる。一方、CNP を用いた軟骨無形成症に対する TR は残念ながらこの研究期間内では成果が認められなかったが、総合的に判断すると、当初目標に対し、期待どおりの成果があった。</p>
A	